

# 2013年度 東日本大震災 教育復興支援レポート



公益社団法人  
**日本ユネスコ協会連盟**

## 被災地の未来は、 子どもたちのなかにある

東日本大震災から3年の月日が過ぎました。改めまして、犠牲となられた皆さまのご冥福と、復興の道のりを歩まれている被災地の皆さまのご健勝を衷心よりお祈り申し上げます。

私たちは、この3年間、被災地の教育委員会やユネスコ協会と協力して、復興の担い手となる子どもたちの未来を拓くための教育復興支援を行ってまいりました。その結果、144校の被災校を直接支援すると同時に、2つの奨学金事業を通して、2013年度もたくさんの子どもたちに奨学金を給付することができました。また、被災地の自治体や企業と協力して、コミュニティ再生のための文化復興支援も行ってまいりました。

こうした成果は、私たちの活動に共感していただいた多くの皆さまからの温かいご支援の賜にほかりません。ご協力いただいたすべての皆さまに深く感謝申し上げます。

一方、被災地では、いまだにもとの生活を取り戻す見通しが立たず、多くの方が不安と不便さを抱えながらの生活を余儀なくされています。そんな被災地にあって、将来の夢に向かって勉強や部活をがんばる子どもたちの姿は、希望の道しるべになっています。親御さんはご健在でも、被災によって経済状況が悪化した家庭の子どもは、数万人にものぼるといわれています。奨学金を必要としている子どもたちは、まだまだたくさんいます。

被災地の復興には、これからも時間がかかりそうです。被災が原因で、子どもたちが進学や夢をあきらめることのないよう、私たちは引き続き支援を続けてまいります。

皆さまの温かいご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



公益社団法人  
日本ユネスコ協会連盟 会長  
松田 昌士

## 子どもたちが安心して学ぶ。 そんな当たり前の日常を 取り戻すために



震災直後、私たちは“東日本大震災子ども支援募金”を立ち上げました。そして、職員を被災地に派遣し、支援ニーズを聞き取りました。その結果、被災した学校に対して短期の緊急物資支援、中期の学校・コミュニティ復興支援、長期の奨学金事業により、被災地の教育復興に取り組むことを決定しました。

**1年目**は、まず被災校144校と連絡を取り合い、要請のあった物資を迅速に届け続けました。4月には遺児・孤児となった子どもたちへの奨学金事業を立ち上げ、次いで、移動図書館車やお祭り支援などコミュニティ再生のお手伝いを始めました。夏には、子どもたちの心のケア支援も開始し、経済状況が悪化したご家庭の子どもたちへの奨学金事業も開始しました。

**2年目**は、短期の被災校支援を終了し、コミュニティ再生の支援と奨学金事業を継続しました。

**3年目**は、2つの奨学金事業を中心に支援を継続しました。



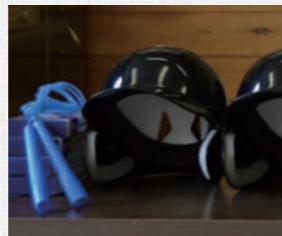
### もくじ

02	私たちが 3年間で取り組んだこと	14	心のケア支援	20	会計報告・ 募金のお願い
04	ユネスコ協会 就学支援奨学金	16	コミュニティ支援		
10	MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金	18	ご協力いただいた 皆さま		

# 私たちが3年間で取り組んだこと

## 1.学校への緊急物資支援

学校を再開するために、まず行ったのが緊急物資支援でした。被災により学習に必要な備品が流出してしまったため、学校のニーズにあわせて、教材類や体育用具など、柔軟に支援活動を展開しました。また、仮設住宅や避難所と学校をつなぐスクールバスも支援しました。



学習用品、体育用具などニーズに応じて支援

**支援実績** | 幼・小・中・高144校、2教育委員会

※この支援は2011年度に完了しました。

## 2.心のケア支援

地震と津波への恐怖から強い不安を抱いている子どもたちの、心理的ストレスをやわらげるために、夏休みにキャンプや絵画コンテストなどを実施しました。

» P14~15(2013年度)



被災地を離れてのびのびと過ごしたキャンプ

**支援実績**

ユネスコ子どもキャンプ: 参加者54名

子ども絵画コンテスト: 参加者2958名

絵本の読み聞かせ会、ユネスコ/震災復興研修会: 参加者30名(教職員)

コンサート開催5市町村、子どもたちとのふれあい支援4市町、

辞書引き学習1校、学習旅行支援1回

## 3.社会教育分野への 支援

被災地では、仮設住宅で暮らすなど、生活環境が大きく変化しました。被災地のコミュニティ再生を目指して、移動図書館や学童保育所、相撲場などを支援しました。

» P16~17(2013年度)

**支援実績**

移動図書館車5台、学童保育所1棟、  
学童保育所の物資支援3カ所、図書館1棟と備品支援、  
幼稚園の物資支援1カ所、補習クラス96カ所、  
道具やスポーツ用品の提供36校、実験工作教室20回



図書館は子どもたちにとっても楽しみな場に

## 5.子どもたちへの奨学金プログラム

**MUFG・ユネスコ協会**

**東日本大震災復興育英基金**

両親もしくはいずれかの保護者が死亡・行方不明になってしまった子どもを対象とした給付型の奨学金。その他、さまざまなプログラムを通じて、心豊かな成長を目指す支援を行っています。

» P10~13(2013年度)



**支援者数** | 1128人(2014年3月31日時点)

**ユネスコ協会就学支援奨学金**

経済状況が悪化したご家庭の子どもたちが、安心して学校に通えるように奨学金を給付しています。

» P4~9(2013年度)



**支援者数** | 1986人(2013年4月1日~2014年3月31日)

※「子どもたちへの奨学金プログラム」は、2013年度の支援者数を記載しています。

## 4.文化への支援

震災によって危機に瀕した祭り・文化を救ってほしい——。被災地の声を受けて、失われつつある自然・文化を未来へ伝える「未来遺産運動」の一環として、人びとの気持ちをつなぐ郷土芸能や祭りへの物資支援を実施しました。

» P17(2013年度)

**支援実績**

雄勝法印神楽: 神楽面4面の復元と衣装や備品、ドキュメンタリー映画制作  
櫻舞太鼓: 短胴桶太鼓2張、締太鼓皮10枚、用具運搬車両、  
学校での郷土芸能教育用具



晴れやかに復活した雄勝法印神楽

	震災発生から1ヶ月	震災発生から2ヶ月	震災発生から3ヶ月	震災発生から4~12ヶ月	震災発生から2年目	震災発生から3年目
1. 学校への緊急物資支援 津波被災校および原発避難校への支援	●学校支援開始	経済状況が悪化したご家庭の子どもたちへの奨学金事業創設	遺児・孤児のための奨学金募集開始	心のケア、コミュニティ再生のための支援開始 ユネスコ協会就学支援奨学金募集開始	1年目に引き続き、奨学金事業を中心に中長期的な支援を継続	1~2年目に引き続き、奨学金事業を継続 現地のニーズにあわせて多様なコミュニティ再生支援を実施
2. コミュニティの絆を再生するための物資支援 心のケア支援 社会教育分野への支援 文化への支援		●学校の花壇再生プログラム開始(現在も継続)		●スクールバス贈呈(釜石市・亘理町) ●学童保育所支援 ●文化復興支援開始 ●第1回子ども絵画展 ●コミュニティ図書館支援 ●移動図書館車支援開始(気仙沼市、大槌町、釜石市、洋野町) ●相撲場完成(山田町) ●第2回子ども絵画展(東北沿岸11地域)		●ふれあい事業開始
3. 子どもたちへの奨学金プログラム 震災遺児・孤児への支援 被災した子どもたちへの支援	●MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金創設	●ユネスコ協会 就学支援奨学金創設	●MUFG・ユネスコ 東日本大震災復興育英基金 2011年度募集開始	●ユネスコ協会就学支援奨学金 2011年度募集開始	●MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金 2012年度新規募集開始	●MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金 2013年度新規募集開始

### 支援をいただいた主な企業・団体

(学校への緊急物資支援) あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 / 市川市少年野球連盟 / 株式会社ウイザス / 株式会社欧州エキスプレス / 花王株式会社 / 株式会社紀伊國屋書店 / 株式会社光明工事 / 株式会社ジーシーピー・インターナショナル / 宗教法人真如苑 / 株式会社スポーツビズ / 東京大塚ア波おどり実行委員会 / 西山製麺株式会社 / 日本私立学校振興・共済事業団 / 日本石鹼洗剤工業会 / 日本テラバッック株式会社 / 日本電信電話株式会社 / 文京学院大学学生園児一同 / ベネッセ募金・ベネッセグループ / 株式会社ベルセレージュ本社 / 北海道札幌開成高等学校 / 北海道千歳北陽高等学校 ボランティア部・生徒会 / 三菱重工業株式会社 / 株式会社三菱東京UFJ銀行 / ルーカスター株式会社 / 有限会社レタスアンドピアス / 各種企業・団体の皆さま / 個人募金者の皆さま / 各地ユネスコ協会・ユネスコクラブ

(コミュニティの絆を再生するための物資支援) イケア・ジャパン株式会社 / 花王株式会社 / トレンドマイクロ株式会社 / 株式会社ニッセン / 日本テトラパック株式会社 / BASF / フェリシモファンド / 株式会社ベネッセコーポレーション / 株式会社ベネッセホールディングス / 三菱商事株式会社 / 三菱UFJニコス株式会社 / UBIソフト株式会社 / 力士会  
※「子どもたちへの奨学金プログラム」についてはP5、P11をご参照ください。

## ■ ユネスコ協会就学支援奨学金



震災から3年。

あの日、小学生だった2人は中学生へと成長した。

暮らしていた家も、街も、まだ元の姿には戻らないけれど、叶えたい夢ができたから、一歩ずつ未来へ歩いています。

**支援対象者** | 津波による家屋流失・損壊などの理由により、著しく経済状況が悪化した家庭の小・中学生（対象者の詳細は市町村により異なります）

**支援金額** | 奨学生一人あたり月額2万円を3年間給付

**対象地域** | 岩手県、宮城県、福島県の3県で被害の大きかった市町村を特定して実施

## 未来を担う子どもたちに 奨学金を届けることができました

皆さまからのご寄附を原資に、2011年度、2012年度に採用した奨学生への給付を継続するとともに、2013年度も新規に奨学生を採用しました。

### 奨学金が役立てられました

2011年度から支援を行った5つの市町（石巻市・気仙沼市・仙台市・南三陸町・大槌町）の奨学生への3年間の支援が完了しました。この3年間、子どもたちや親御さんはたくさんの不安を抱えながらの生活をおくってきました。そんな中、奨学金は、子どもたちが安心して学校に通い、勉強や部活動に励む日常を取り戻すために役立てられました。



### 支援を継続しています

2012年度、2013年度に採用した奨学生へは、奨学金給付を継続しています。

また、いまなお復興途上にある被災地の現状を受け、さらに一人でも多くの子どもたちに奨学金を届けられるよう、2014年度も支援活動を継続します。引き続き、皆さまの温かいご支援・ご協力をお願いいたします。



■ 支援者数：1986人  
■ 奨学金送金額：4億7626万円（2013年4月1日～2014年3月31日）  
岩手県／大槌町、釜石市、宮古市、山田町、陸前高田市  
宮城県／石巻市、女川町、気仙沼市、仙台市、名取市、東松島市、南三陸町、山元町  
福島県／相馬市、南相馬市

### 支援いただいた主な企業・団体

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社／赤城乳業株式会社／アクアクララ レモンガス グループ／アクサ生命保険株式会社／株式会社アトレ／MOCマーケティング株式会社／LG Electronics Japan株式会社 社員一同／園芸学会／オリックス米国財團／カトリック上野毛教会／一般社団法人 銀座通連合会／グッチ ジャパン／有限会社クロフネブライダル／株式会社健康第一調剤薬局／株式会社光明工事／公立学校共済組合やすらぎの宿(利用者一同)／国際投信投資顧問株式会社／株式会社三喜／株式会社ジェイアール東日本都市開発／株式会社ジェイティーピー／株式会社ジェーシーピー・インターナショナル／渋谷教育学園渋谷中学高等学校／株式会社じぶん銀行／JAPONAIDE／株式会社JUN／ジョルジオ アルマーニ ジャパン 株式会社／新コスマス電機株式会社／宗教法人真如苑／株式会社スペースシャワーネットワーク／株式会社生薬高度利用研究所／株式会社セレスポ／全国空襲被害者連絡協議会／株式会社ソニー・ミュージックアーティスツ／櫛祭醸造元 旭酒造株式会社／株式会社力の源カンパニー／3.11つながり募金実行委員会／株式会社Tポイント・ジャパン／東京大塚阿波おどり実行委員会／東芝テックソリューションサービス 社会貢献基金／東レ株式会社／柄木ひいらぎ／株式会社トランスクンテナ／トレンドマイクロ株式会社／南部化成株式会社／一般社団法人日本旅館協会／日本テトラパック株式会社／宗教法人日本テラワーダ仏教協会／一般社団法人日本の伝統を守る会／日本を創新する会／東日本旅客鉄道株式会社／フォーエバービングプロダクツ ジャパン／ブルーチップ株式会社／株式会社ブルーヒルズ／ベネッセ募金／ベネッセグループ／株式会社ベルセレー ジュ本社／北海道岩見沢農業高校ボランティア部・北海道岩見沢緑陵高校ボランティア部・北海道岩見沢東高校ボランティア部・北海道岩見沢高等養護学校生徒会執行部／マックスバリュ西日本株式会社／宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校PTA／リコーアイメージング株式会社／株式会社ロッテアイス／特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン／各種企業・団体の皆さん／個人募金者の皆さん／各地ユネスコ協会・ユネスコクラブ (50音順)

## ■ユネスコ協会就学支援奨学生 奨学生インタビュー

# 子どもたちの夢が、未来をひらく

震災の年に始まったユネスコ協会就学支援奨学生事業は、この春で3年の節目を迎えました。家族とともに被災後の歳月を乗りこえてきた奨学生たちの3年間を振り返ります。

※文中のお名前はすべて仮名です。また学年は2014年2月取材時のものです。



### それぞれの夢を追いながら 高校進学を目指す

ユネスコ協会就学支援奨学生

**山本 ユリさん・エリさん**

中学2年生

宮城県気仙沼市

#### 先の見えない日々に 奨学生が教育の明かりを灯した

双子の姉妹、山本ユリさんとエリさんは、震災が起ったとき小学5年生。高台にある学校において被災を免れましたが、その日のうちに家族とは連絡がとれず、学校で不安な一夜を明かしました。津波にのまれた後、火災で燃える気仙沼の街を、先生や友だちと一緒に見ていましたといいます。

あれから3年。姉妹は中学2年生になりました。2人とも小学生の時はプラスバンド部で活躍していましたが、いまはテニスの部活を頑張りながら、姉のユリさんは執行部(生徒会)にも参加し、副会長として活躍しています。一方、妹のエリさんは、好きな絵を描くことに夢中です。屈託のない笑顔のままに、のびのびと成長してきた2人ですが、母の尚子さんはこう振り返ります。

「震災当時は、4人の子どもと義父母を抱えて、生きるのに必死でした。そんな中、ユリ・エリを含めて3人の子に奨学生をいただくことができ、どれだけ助かったかわかりません。生活再建の先が見えない中、少なくとも、子どもたちの教育はなんとかなりそうだと思えました」。

#### 将来の夢は未知数 もっといろいろなことを勉強したい

震災では、自宅のほかに、父の信博さんが営む会社も津波で流されました。以来、ユリさんたち一家は、祖父母の家で生活しています。信博さんは仮設店舗で仕事を再開しながら、会社の再建に奔走中。パートで働く尚子さんも、休む暇なく頑張ってきました。そして3年が過ぎ、一時はまっ暗になった街に、ぽつぽつと明かりが灯り、少しずつ復興するようすを姉妹はずっと見てきました。

そんな2人が震災以来、心がけていることがあります。「道で会う人には笑顔であいさつしよう」というものです。当たり前のことですが、それが「街の復興のため自分たちにできること」だと思うからです。

震災1年目のころ、2人は「看護士など人に関わる仕事、人の役に立つ仕事に就きたい」(ユリさん)、「好きな絵を描く仕事がしたい」(エリさん)と、夢を語ってくれました。いまは、いろいろなことを勉強して、将来のことを決めたいと考えるようになったとか。そして、同じ高校への進学を目指し、はつらつと中学生活をおくっています。



小学生のときから勉強するときはいつも一緒に



中学ではテニス部に在籍している



2人はいま同じ高校を目指して頑張っている



### 自分で決めた夢に向かって 毎日を一生懸命生きる

ユネスコ協会就学支援奨学生

**池田 明彦さん**

高校2年生

宮城県気仙沼市

#### 目標は決まった あとは自分が頑張るしかない

2014年春から、明彦さんは高校3年生に。大学受験を控えたいま、将来の目標を「放射線技師になる」と定めました。

「両親は、お金のことはあまり気にするな、といってくれています。進路は両親とも相談しましたが、自分で決めたことなので、あとは頑張るしかないです。もう受験する大学も決めました」と力強く話してくれました。

部活の締めくくりとして、いまは県大会を目指してトレーニングに励み、その後、本格的な受験態勢となります。

「4畳半2間の仮設住宅で、暮らしありがたりでしたが、思ったより早く時間が過ぎました。部活も勉強も頑張って、毎日とても充実していたから、この3年が早かったのだと思います」。

夢に向かって自分にできるのは「いまを一生懸命生きること」と語っていた明彦さん。そのひたむきさを胸に、いつも見守ってくれた両親に感謝しつつ、自分の道を踏み出そうとしています。



津波で流された家の跡地に立つ



夢に向かって前に進む



進路は決めた。「あとは自分が頑張るだけです」

## ユネスコ協会就学支援奨学生からのお手紙

# 被災地から心をこめて 「ありがとう」

ユネスコ協会就学支援奨学生からは、事業開始以来、たくさんのお手紙が寄せられています。

2013年4月以降にいただいたお手紙から、一部を抜粋してご紹介します。

震災前の町や生活にはまだ戻っていませんが、少しずついまの生活に慣れています。私は高校に進学してからも中学で続けていたソフトテニス部に入部しています。私たち女子ソフトテニス部は5人中4人が震災で家を流失してしまいました。それでも日々の部活動を頑張っています。私はこの奨学金で通学に必要な定期券と部活動に必要な遠征費やスポーツ用品を買わせていただいている。本当にありがとうございます。

初ホームラン!!  
エースです!  
毎日、「甲子園」を目指して頑張ってます!!  
これからも応援よろしくお願いします!!



東日本大震災による津波で家を流されてしまい、僕はいま仮設住宅に住んでいます。そんな生活も3年近くになり、震災当時小学校6年生だった僕は、もう少しで中学校を卒業します。ここまで生活してこられたのは、全国の皆さんからの支援があってのことです。本当にありがとうございました。

高校に入学したら、将来の夢のために勉強していくたいです。これからは自分のため、今まで支えてくれた家族のため、そして支援をしてくださった皆さんのためにも、がんばっていこうと思います。



僕は将来、建築士になりたいと考えています。僕の住んでいる岩手県宮古市は、東日本大震災で甚大な被害を受けました。僕がおとなになんでも、仮設住宅に住んでいる方々はまだいると思います。そういう方々に、少しでも便利で快適に過ごしてもらいたいから、建築士になりたいと思いました。学校ではいろいろな活動をしています。僕はこんど受験なので、精いっぱい勉強しています。ほかにも、体育祭では応援団長、文化祭では演劇や特設合唱部に参加し、生徒会活動にも積極的に参加しています。部活動では野球部に所属していました。小学校でも野球をしていましたが、努力が足りず、レギュラーになることはできませんでした。でも中学では毎日努力して、小学校からの夢だったホームランも打てました。そして、中学生生活最後の東北大会では準優勝することができました。高校でも努力を忘れず、いろいろなことに挑戦していきます。

勉強に部活動に大変な日々ですが、その分大きな達成感を得ることができます。さまざまな面で充実した日々を過ごしています。震災を経験し、気づいたことがあります。それは、毎日普段通りの日々を過ごせることは、幸せだということです。当たり前のように学校へ行き、当たり前に授業を受け、当たり前のように友だちと笑い合う。幸せは身近なところにありました。毎日楽しく過ごせているのは、日本全国、そして世界中の皆さんからの支援と応援のおかげです。残りの高校生活では、皆さんへの感謝の気持ちを忘れず充実したものにしたいです。

東日本大震災以来、父の仕事がなくなりましたが、アルバイトをしながら私たち家族を養ってくれています。母も、私と姉のW受験で少しでもアルバイトかパートの仕事はないかと探しているようですが、私が心臓病のため、学校の送り迎えをしなければならないし、調子が悪くなったり早急に学校に迎えに来て病院に行ったりするため、なかなか仕事が見つからないようです。そんな両親に親孝行ができるよう、そして支援してくださる皆さんに恩返しできるよう、頑張っていきたいと思います。

入学後すぐにあったテストでは3桁台だった順位も、2月末にあった学年テストではクラス4位・学年18位まで上がりしました。また、年に3回あった模擬試験では学年首位をとったこともあります。評定では5が9個、4が3個という好成績でした。これは、皆さんの支援のおかげで勉強に集中できる環境ができていたからこそ、得ることができた成績だと思います。

ご支援  
ありがとうございます。

私は震災から、もうすぐ3年経つ今でも仮設住宅暮らしています。とてもせまくて大変ですが、今は高校受験に向けて勉強をがんばっています。これからも大変なことが、もっとたくさんあると思いますが、日本中のたくさんの人々に支えていくにしている。ことを心に頑張っていきたいと思います。

# MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金



被災地の子どもたちが

のびのびと学び、成長するため、

MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金では

奨学金プログラムをはじめ、さまざまな支援を行っています。

**支援対象者** | 東日本大震災発生時に災害救助法適用地域に居住しており、両親もしくはいずれかの保護者が死亡・行方不明となった子どもで、2011年～2014年の各4月時点で小学校から高等学校に在籍していた者

**支援金額** | 奨学生一人あたり一時金10万円+毎月2万円を高校卒業まで給付

## 1128名の子どもたちに 奨学金を届けています(2014年3月31日時点)

2013年度、MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金に、新たに申し込みがあったのは59名。奨学金の給付をはじめ、物心両面での支援を続けています。

### 震災直後に基金を創設

三菱UFJフィナンシャル・グループ(MUFG)と話し合いを行い、MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金を創設したのは、震災直後の2011年4月のことでした。この基金の柱となっているのは、小学生から高校生までの児童・生徒を対象とした奨学金給付事業です。ほかにも各種プログラムを通じて、子どもたちの心豊かな成長を目指し、物心両面での継続的な支援を行っています。

### 震災の遺児・孤児のための 奨学金事業

基金の中心となるのは、給付型奨学金プログラムです。基金創設と同時に、三菱東京UFJ銀行とともに準備を重ね、2011年6月20日には第1回奨学金の給付を開始することができました。以来、継続して支給を行っています。

#### 2013年度 支援実績

■ 支援者数: 1128人 (2014年3月31日時点)  
■ 奨学金送金額: 2億7680万円 (2013年4月1日～2014年3月31日)  
小学生: 419人 / 中学生: 335人 / 高校生: 366人  
養護学校・特別支援学校: 8人

#### 支援をいただいている企業・団体

株式会社三菱東京UFJ銀行をはじめ、  
三菱UFJフィナンシャル・グループ各社



このほか、学校の花壇再生プログラム、国際交流プログラムや交流会への招待など、子どもたちの日常を活気づけ、未来への夢を大きく描けるような企画を実施しています。

### 担当者からのメッセージ

震災から3年たったいまも、被災地では多くの子どもたちが、お父さんやお母さんやご家族を失った悲しみから癒えていません。また、仮設住宅に暮らし、仮設校舎で学ぶなど、いまだ厳しい現実の中にいます。そんな子どもたちが少しでも笑顔になれればと、奨学金プログラムに加えて交流会を開催したり、被災した学校にMUFG社員がお邪魔して、花壇に花を植えたり植樹をしたりしてきました。この学校花壇再生プログラムは3年間で30回実施し、MUFG社員約940名が参加しました。

引き続きMUFG社員が、被災地支援に熱い想いを抱き、参加することによって、震災が風化しないよう少しでもお役にたてればと思っています。



## MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金



被災地の花壇を再生させる活動はいまも続く



サッカーのエスコートキッズが終わって駆け出す子どもたち



©JPFA TOMODACHI・MUFG 国際交流プログラムでは日米の高校生らが交流

### 花壇再生プログラム

東日本大震災による津波被害や、除染作業などによって、多くの学校の花壇が失われました。そこで、三菱東京UFJ銀行をはじめとするMUFG社員が、ボランティアとして被災地（岩手県・宮城県・福島県）の学校などを訪問し、花壇の土の入れ替えや花苗を植える取り組みを行っています。花苗を植えて咲かせることで、子どもたちに明るい気持ちを取り戻してほしい、という思いのもと開始しました。花を植えた後は、子どもたち自身が水をあげることで、育てる大切さを知ってもらいます。



多くの社員ボランティアが被災地で汗を流した

2013年度  
支援実績

2013年度は計12回、15校で実施し、約350名のMUFG社員が参加しました。  
【実施校】岩手県／宮古市立田老第一中学校、岩手県立宮古工業高等学校 宮城県／亘理町立吉田中学校、気仙沼市立松園幼稚園、  
気仙沼市立唐桑幼稚園、亘理町立逢隈小学校、南三陸町立名足小学校、気仙沼市立大谷小学校、石巻市立石巻女子商業高等学校、石巻市立開北小学校 福島県／南相馬市立鹿島小学校、福島県立いわき高等学校、南相馬市立原町第三小学校、  
南相馬市立小高小学校、南相馬市立太田小学校

### TOMODACHI・MUFG 国際交流プログラム

TOMODACHI Initiative は、東日本大震災からの復興を支援するとともに、長期にわたり日米間の文化的・経済的な結び付きを強化し、両国の若い世代の友好を深めあう官民パートナーシップです。MUFGはこの趣旨に賛同し、東日本大震災の被災地の中学生・高校生・教員を中心に、米国の学生・教員と交流する3年間の「日米相互交流プログラム」を立ち上げました。

2013年度  
支援実績

南カリフォルニアの高校生26名と教職員4名の30名が来日。1回目に訪米した被災地の17名の高校生（うち6名はMUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金の奨学生）とも交流しました。

#### 2回目はアメリカの高校生が来日

2012年、宮城県の中・高校生らが訪米した1回目につづき、2013年は南カリフォルニアの高校生ら30名が来日。東京、宮城、広島、関西で約2週間を過ごしました。一行は仙台周辺でホームステイを体験し被災地を訪問、1回目に被災地から米国に派遣された高校生とも交流しました。被災地の学校を訪ね、和太鼓で日米交流



### チャリティサッカー2013

被災地支援を目的に2013年12月28日（土）、宮城県仙台市で開催された「チャリティサッカー2013」（主催：一般社団法人日本プロサッカー選手会）に、MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金の奨学生31名を招待しました。奨学生たちは、出場選手と手をつないで競技場に入場。その後、試合を観戦してから、サッカー元日本代表の小笠原満男選手（鹿島アントラーズ所属）らとの交流会に参加し、選手たちからサインをプレゼントされました。

2013年度  
支援実績

仙台市周辺の奨学生31名が参加。

**保護者からのメッセージ**

エスコートキッズの体験や、プロの選手と交流したこと、息子がサッカーをやりたいというようになりました。震災後、進んで何かをやりたいということはなかったのですが、とてもいい思い出となったようです。

サッカーの好きな父でしたので、天国で喜んでいると思います。

エスコートキッズという夢のような体験をしたことが、子どもの笑顔となりました。

憧れの選手と手をつないで入場  
©JPFA

### バレーボール教室

一般社団法人日本バレーボールリーグ機構との共催で、2013年から被災地でバレーボール教室を実施しています。トップレベルのスポーツ選手と接することで、子どもたちに夢を追うことの素晴らしさを感じてほしいとの思いから始まりました。指導にあたったのは、日本代表として活躍した選手や三菱東京UFJ銀行のバレーボール部所属の行員など。子どもたちは「トップクラスの選手の技術を目の前で見て、自分もうまくなりたいと思いました」などの感想を寄せてくださいました。

2013年度  
支援実績

2013年1月～2014年3月まで計5回実施し、約440名の生徒・児童が参加。

**参加者からのメッセージ**

震災後は練習場所がなく、困ることもありましたが、このようにたくさん的人に支えていただけてとても嬉しかったです。

細かいパスの仕方や練習方法まで教えていただきたいので、今後の練習に活かしていきたいです。

大先輩の指導に、子どもたちは生き生きと体を動かしていた

## 心のケア支援



宮城県山元町で実施された親子ふれあいイベント「みんなで大きな絵をかこう!」にて

### 音楽を通じて心の安らぎを 「被災地に音楽を」

被災した子どもたちにひとときの心の安らぎを感じていただくため、日本フィルハーモニー交響楽団と連携して、小学校や中学校でコンサートを開催しました。あわせて、楽団員が学校の吹奏楽部へ赴いて演奏を指導。プロの演奏家のていねいな指導に子どもたちは大感激。「この出会いを忘れず、これから演奏に生かしていきたい」などのコメントが寄せられました。

**2013年度  
支援実績** 久慈市、田野畠村、野田村、洋野町、普代村

協働していただいた企業 | 三菱UFJニコス株式会社



楽団員の指導に一心に耳を傾ける

### 震災を風化させないため現地へ足を運ぶ 子どもたちとのふれあい支援

社員ボランティアが被災地を訪問し、保育園などの施設の要望に対応して、児童や園児たちとふれあう活動などを実施しました。震災の風化を防ぐため、被災地を視察して現状を把握し、現地が求める支援を続けています。

**2013年度  
支援実績** 釜石市、名取市、東松島市、山元町

協働していただいた企業 | 三菱UFJニコス株式会社



子どもたちとのびのび過ごす時間を大切にしている

### 子どもたちの絵を復興のメッセージに こども絵画展

被災地の子どもたちの絵を募集して全国に発信することで、復興のメッセージにしようと企画された絵画展です。2012年から2回実施され、2013年のテーマは「わたしの大好き」。2560名の子どもたちが素敵なお絵描きを描いてくれました。ホームページ上の展覧会とあわせて、盛岡、仙台、福島、山形市の各駅ビルで巡回展観覧会を実施。また、子どもたちの絵よりデザインしたチャリティTシャツも制作販売しました。

**2013年度  
支援実績**

支援をいただいた企業 | 株式会社ニッセン



全国に発信しようと、子どもたちの絵のTシャツを購入した山元町職員

### 辞書を使って考える力を伸ばす 辞書引き学習支援プログラム

中部大学の深谷圭助准教授が実践・提唱している「辞書引き学習法」は、知識の宝庫である辞書を使う学習法。身近にある辞書を通じて、ものごとを考える力を伸ばす最初のきっかけづくりを目指しています。このプログラムでは、被災地の小学生を対象に、辞書を寄附した上で授業を実施しました。

**2013年度  
支援実績**

2013年度は  
福島県南相馬市の小学校で実施

支援をいただいた企業 | 株式会社ベネッセホールディングス  
株式会社ベネッセコーポレーション



熱心に辞書引き学習をする子ども

### 自分たちの町づくりを考えるきっかけに 学習旅行支援

2013年9月、野田村立野田村中学校1年生25名が、岩手県内にある世界遺産平泉を訪れる学習旅行を実施。岩手県平泉ユネスコ協会、平泉町、平泉観光協会の全面協力により、子どもたちは中尊寺・毛越寺をはじめ、平泉町の公的機関(教育委員会など)、民間の商店などへのフィールドワークを行いました。世界遺産平泉の歴史や町づくり、地域の魅力を発信する大切さを学び、復興への町づくりを考えもらうことを目的としています。

**2013年度  
支援実績**

平泉町への学習旅行1回

支援をいただいた企業 | UBIソフト株式会社



フィールドワークを通じて町の再生について考えた子どもたち

## ■ コミュニティ支援



スポーツ用品支援で贈られたビート板はプールで大活躍

### 気仙沼の子どもたちや市民活動を支援 「ここに笑顔」プロジェクト

「学校と学習環境の復興支援」「震災体験の共有化」の2つの内容で、  
気仙沼市の子どもたちや市民の文化活動を支援しました。

#### 学校と学習環境の復興支援

大学生ボランティアによる小中高校生を対象とした学習支援、  
学校が必要とする遊具やスポーツ用品の支援、また、園舎が被災  
したため新園舎となった2つの幼稚園に遊具の環境整備を実施  
しました。さらに、科学的な知識を復興へも役立ててもらおうと、  
子ども向け実験・工作教室を実施。市民向けには、映画祭の開催  
を支援するなど文化の復興を支えるお手伝いをしました。

#### 震災体験の共有化

子どもたちの心のケアを目指して、震災を経験したユネスコ  
スクールのESDへの取り組みをまとめるため研修会を実施し、  
報告資料を作成。学校以外での青少年活動については座談会  
を実施し、活動再開への過程と課題を報告資料にまとめました。

**2013年度  
支援実績**  
補習クラス96ヶ所、  
気仙沼市内36校への遊具やスポーツ用品の提供、  
実験工作教室20回

支援をいただいた企業 | BASF



水の浄化実験に真剣なまなざしの子どもたち



安全な遊び場支援で贈られたブランコに乗って

## 地域の心のよりどころ、神楽の復活を記録 「雄勝法印神楽」ドキュメンタリー制作

2012年度、宮城県雄勝町が誇る国の重要無形文化財  
「雄勝法印神楽」の復興への歩みを記録したドキュメンタリー映画を制作（監督：手塚眞）しました。神楽の復活が  
雄勝町の再生に向けた第一歩であることを記録。被災地の人びとを応援するとともに、全国の人びとに伝統芸能の  
復興への取り組みを知ってほしいという目的で制作しました。フランス・パリの日本文化会館をはじめ、全国7ヵ所で上映  
会が行われました。

ドキュメンタリーDVD「雄勝～法印神楽の復興」(60分)制作  
監督：手塚眞  
機材協力：キヤノンマーケティングジャパン株式会社

支援をいただいた企業 | 日本テトラパック株式会社



神楽と人びとの復興への歩みを記録

## 地域の人びとを結びつける場として 図書館支援

地域の核となるコミュニティ機能を有した気仙沼図書館唐  
桑分館が、気仙沼市に開館しました。復興へ向けて地域に  
住む人びとを結びつけるものがほしい、また、図書館のニーズ  
も高まっている、という唐桑地区の人たちの声をもとに計画。  
地域の高台に建設が進められ、2013年に誕生しました。  
いまでは館内で学習していく子どもや、連日来館して本を  
読む子どもも見られ、地域の人びとを結びつける場として  
機能しています。

**2013年度  
支援実績** 図書館1棟

支援をいただいた企業 | 日本テトラパック株式会社



地域の人たちが待ちに待った開館式

## 居心地のよい空間のために 図書館の備品支援

上記の気仙沼図書館唐桑  
分館の開館に際し、訪れた  
人が快適に過ごせるように、  
書架、カーテンなど館内の  
備品を支援しました。



カラフルなインテリアで  
館内での時間がより楽しく

**2013年度  
支援実績** 書架、カーテンなど517点

支援をいただいた企業 | イケア・ジャパン株式会社

## 新園舎での新しいスタートに向けて スマイルバスケットのびる幼稚園を応援プロジェクト

津波の被害に遭った宮城県  
東松島市のびる幼稚園へ、  
ベネッセコーポレーションの  
スマイルバスケットにて商品  
購入などを通じて応援資金を  
募り、子ども用家具、玩具など  
約120点を寄贈しました。



贈呈式では子どもたち皆が笑顔に

**2013年度  
支援実績** 子ども用家具、玩具など120点

支援をいただいた企業 | 株式会社ベネッセコーポレーション

# ご協力いただいた皆さん

日本ユネスコ協会連盟が進めてきたこれまでの活動は、  
以下の企業・団体をはじめとする多くの皆さんに、温かいご協力をいただいております。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	赤城乳業株式会社	アクアクララ レモンガスグループ	アクサ生命保険株式会社	株式会社アトレ	株式会社力の源カンパニー	3.11つながり募金実行委員会	株式会社Tポイント・ジャパン	東京大塚阿波おどり実行委員会	東芝テックソリューションサービス社会貢献基金
市川市少年野球連盟	株式会社ウイザス	MOCマーケティング株式会社	LG Electronics Japan株式会社 社員一同	園芸学会	東レ株式会社	栃木ひいらぎ	株式会社トランスクンタナ	トレンドマイクロ株式会社	南部化成株式会社
株式会社欧洲エキスプレス	オリックス米国財團	花王株式会社	カトリック上野毛教会	株式会社紀伊國屋書店	西山製麺株式会社	株式会社ニッセン	日本私立学校振興・共済事業団	日本旅館協会	日本を創新する会
一般社団法人 銀座通連合会	グッチ ジャパン	有限会社クロフネブライダル	株式会社健康第一調剤薬局	株式会社光明工事	宗教法人 日本テーラワーダ仏教協会	日本電信電話株式会社	一般社団法人 日本の伝統を守る会	日本旅館協会	日本を創新する会
公立学校共済組合やすらぎの宿 (利用者一同)	国際投信投資顧問	サービス・ツーリズム産業労働組合連合会	株式会社三喜	株式会社ジェイアール東日本都市開発	BASFジャパン株式会社	東日本旅客鉄道株式会社	フェリシモファンド	フォーエバーリビング プロダクツ ジャパン	ブルーチップ株式会社
株式会社ジェイティーピー	株式会社ジェーシービー・インターナショナル	株式会社じぶん銀行	JAPONAIDE	株式会社JUN	株式会社ブルーヒルズ	ベネッセ募金・ベネッセグループ	株式会社ベルセレージュ本社	マックスバリュ西日本株式会社	三菱重工業株式会社
ジョルジオ アルマーニ ジャパン 株式会社	新コスマス電機株式会社	宗教法人真如苑	株式会社スペースシャワーネットワーク	株式会社スポーツビズ	三菱商事株式会社	株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	株式会社三菱東京UFJ銀行	三菱UFJニコス株式会社	ユービーアイソフト株式会社
株式会社生薬高度利用研究所	株式会社セレスポ	全国空襲被害者連絡協議会	株式会社ソニー・ミュージックアーティスツ	獺祭酿造元 旭酒造株式会社	力士会	リコーイメージング株式会社	ルーカスター株式会社	有限会社レタスアンドピアス	株式会社ロッテアイス

## 広報等協力

株式会社NHKプロモーション／MSD株式会社／久保純子／クラブ・コンシェルジュ株式会社／株式会社ジェイアール東日本商事／株式会社シブヤテレビジョン／ジャン＝マルク・レイサダ／仙台ターミナルビル株式会社／株式会社タクシーちゃんねる／手塚 真／テラウチマサト／株式会社電通／株式会社電通テック／東儀秀樹／一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟／二村英仁／白鵬関／PIECE OF PEACE実行委員会(株式会社パルコ、レゴジャパン株式会社、株式会社バウコミュニケーションズ)／ピーター・マクミラン／盛岡ターミナルビル株式会社／ユニバーサルミュージック合同会社／株式会社レインボージャパン／わさお

## ご協力いただいた皆さん

- 個人募金者の皆さん…………… 全国の個人募金者の皆さんからも多大なご支援をいただきました。
- 子どもたちから子どもたちへ…… 各地の学校からは、同世代の子どもたちのために温かいご協力がありました。
- ユネスコ協会の輪…………… 日本各地、約280のユネスコ協会からたくさんの支援が届きました。また、維持会員、個人会員、賛助団体会員からも心のこもった支援が届き、ユネスコ精神が結集しました。



ご協力いただいた皆さん

# ■ 東日本大震災子ども支援募金事業 会計報告

## ①MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

(2013年4月1日～2014年3月31日)

(単位:円)

項目	金額
前期繰越	1,395,075,853
寄附額	260,192,058
支出額	298,900,000
奨学金	276,800,000
事業経費	22,100,000
次期繰越	1,356,367,911

※MUFG・ユネスコ協会東日本大震災復興育英基金は、2014年度まで新1年生を募集し、奨学生が高校を卒業する2026年まで継続されます。  
次期繰越金は、2026年までの奨学金事業に使用されます。

## ②ユネスコ協会就学支援奨学金 (2013年4月1日～2014年3月31日)

(単位:円)

項目	金額
前期繰越	477,215,518
寄附額	530,436,975
支出額	542,071,261
奨学金	476,256,000
事業経費	65,815,261
次期繰越	465,581,232

※ユネスコ協会就学支援奨学金は、原則として、奨学生1人につき3年間にわたり支援します。  
次期繰越金は、2014年度以降の本奨学金事業に使用されます。

## ③文化復興支援・地域支援 (2013年4月1日～2014年3月31日)

(単位:円)

項目	金額
前期繰越	38,611,835
寄附額	31,100,669
支出額	58,559,812
支援物資	55,072,736
事業経費	3,487,076
次期繰越	11,152,692

※文化・地域支援は、年度をまたいで支援が完了するものがあります。次期繰越金は、それらに使用されます。

東日本大震災子ども支援募金としてお預かりした皆さまからのご寄附は、  
すべて被災地支援に活用させていただきます。

※当会計報告は、日本ユネスコ協会連盟が公認会計士および監事による監査を受けた計算書類をもとに個別の活動のようすをわかりやすくお伝えするためにまとめたものです。



希望があれば、未来へ行ける。支援があれば、歩き出せる。

## ユネスコ協会就学支援 奨学金

震災から3年。日本ユネスコ協会連盟は2013年度、地震や津波で家や仕事を失うなどした家庭の子どもたちを対象に、1986人に奨学金を給付しました。  
それでも、いまなお支援を必要とする子どもたちはまだたくさんあります。被災が原因で、子どもたちが進学や夢をあきらめないために。皆さまの温かいご支援を、よろしくお願ひいたします。

### 皆さまからのご寄附をお願いします

ご寄附はいくらからでも結構です。日本ユネスコ協会連盟への寄附金は寄附金控除等の対象となります。

まずはお電話ください。受付ダイヤル 03-5424-1124 (9:30～17:30／土・日・祝日を除く)

- ユネスコ協会就学支援奨学金専用募金口座  
三菱東京UFJ銀行 神田支店 (普)0297275 名義:シャニホンユネスコキヨウカイレンメイ
- インターネットからもご覧いただけます。 [unesco.or.jp](http://www.unesco.or.jp)

### ユネスコ協会就学支援奨学金について

- 対象者：津波による家屋流失・損壊などの理由により、著しく経済状況が悪化した家庭の小・中学生。(対象者の詳細は市町村により異なります。)
- 対象地域：岩手県、宮城県、福島県の3県で被害の大きかった市町村を特定して実施しています。
- 給付金額：原則として、奨学生一人あたり月額2万円を3年間給付します。(返還不要)

### お問い合わせ先

公益社団法人  
**日本ユネスコ協会連盟**

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12階  
TEL:03-5424-1121(代) FAX:03-5424-1126  
<http://www.unesco.or.jp> E-mail:nfuaj@unesco.or.jp



公益社団法人  
**日本ユネスコ協会連盟**

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12階  
TEL:03-5424-1121(代) FAX:03-5424-1126  
<http://www.unesco.or.jp> E-mail:[nfuaj@unesco.or.jp](mailto:nfuaj@unesco.or.jp)